

中国における自動車リサイクル・ビジネスの展開

——豊田通商株式会社のケース——

陳 志 堅

研究背景

モータリゼーションが進んでいる中国は自動車大国となるにつれて、大量の廃棄自動車が発生してきている。これまで、中国の自動車および自動車リサイクルについて、日中の廃車に関する法律と規制、廃車台数統計や廃車システムの相違点などの観点から研究が行われてきた。しかし、日系企業における中国の廃車ビジネス参入についての研究やケースはほとんどない。本研究は、中国の廃車ビジネスに日系企業が参入したケースを豊田通商を事例に分析する。

研究目的

本研究の課題は、廃車に関する法律と規制や廃車システムから、中国と日本の自動車リサイクルの相違点を踏まえた上で、豊田通商をケース対象として取り上げ、中国での廃車ビジネスの展開の困難点を明らかにすることである。

研究方法

- ① 先行研究を通して、日中の廃車に関する法律と規制、ならびに廃車システムを比較し、両国の相違点を整理する。
- ② 廃車ビジネスを展開する困難点について豊田通商の中国現地担当者にインタビューを行う。

期待される結果

本ケースは、豊田通商はいかに困難を克服し、中国において初の外資系廃車処理企業となったのかを明らかにする。また、両国の商業文化は異なっており、リサイクル・ビジネスに参入した日系企業がその際、どのような商慣習を学んだのかを示す。このケーススタディによって、これから中国市場にエントリーしようとする日本企業は何を留意すべきか、どのような商慣習の相違があり、それをどのように克服すべきなのかを学ぶことができよう。